

令和5年度 大阪府立渋谷高等学校 第3回 学校運営協議会

【日時】 令和6年2月 22日(木) 11:00 ～ 12:00

【場所】 会議室

【出席者】 佐藤琢志委員、奥村昌也委員、上垣真起子委員、室留圭二委員、染川弘委員、
河野沙緒理委員、
佐々木里佳校長、田地浩教頭、中井長朗事務長、上寫伸次首席、元田綾子首席、
梶井俊彦教務主任、常行隆文生徒指導主事、山野天士教諭

【次第】

- 1, 会長あいさつ
- 2, 校長あいさつ
- 3, 意見書について
- 4, 令和5年度学校評価及び令和6年度学校経営計画(案)について
- 5, 学校現状報告
- 6, その他

【議事録】(●事務局 ○協議会委員)(司会 佐藤会長)

1, 意見書について

○意見書の提出はあるか。

●意見書の提出はない。

2, 令和5年度学校評価(案)及び令和6年度学校経営計画(案)について

①令和5年度学校評価(案)について

校長:評価項目を追記した。

②令和6年度学校経営計画(案)について

校長:確かな学力の育成、進路実現の支援、生徒の活動の活性化、地域連携の推進を教育活動の4本柱として、実践する。

司会:令和5年度学校評価(案)および令和6年度学校経営計画(案)についてご意見、ご質問があればいただきたい。

○教育相談について、SC、SSW はどのぐらいの頻度で来校し、どのような連携をしているか。

●SCは年間22回、SSWは月に1回程度となっている。SSWには、貧困に係る相談のため市役所への訪問、あしなが基金等のサポート、保護者への精神的なケアなどをしてもらっている。

○地域でのボランティア活動で、どのような取り組みをしているのか。

●池田商業祭、渋谷子ども食堂では運営補助、五月丘コミュニティでは音楽系クラブによるクリスマス演奏、また福祉の集いで演奏、赤ちゃん日和といった活動に参加している。

○超過勤務について、部活動顧問は時間外勤務が多くなるが、超過勤務時間について教員によりばらつきはあるか。

校長:ある。しかし、クラブ活動は学校生活には必須で、生徒のモチベーションを支えている。

○クラブの加入率の低下について、改善策はあるか。

●新入生の体験入部の促進を行っている。具体的な方策を今後も検討する。

○登下校で、自転車のマナーの悪い生徒もいる。指導を継続的に行ってほしい。

●1年生対象に、年度当初、交通安全指導を行っている。また生徒全体に随時注意喚起している。

○登下校のマナー向上について、誰にとっても安全な通学を、生徒が自分事として意識できるよう、継続指導してほしい。

○R4の進路実績について R3に比べ、国公立や難関大への進学が減っていることについて、授業充実だけではなく、放課後指導等も必要だと思うが、部活動・働き方改革との両立は可能か。

●R4の難関大への進路実績が減ったのは、コロナ禍により、通いやすさが重視されたことも考えられる。また、早く進路を決めたいと安全志向になり、学力が上がりきる前に受験を終わらせる傾向もあった。そのことを踏まえ、今の3年生は、1年次から一般試験を視野に入れ、学習させてきた。模擬試験の結果をみると、上位層の学力が上昇している。家庭での声掛けや支援も必要。

○中学生や保護者の中で、早く進路を決めたいという傾向は顕著である。生徒・保護者は高校の進路状況に敏感になる。渋谷高校の授業見学では、生徒たちの学びに向かう姿が変わり、主体的になってきている。全員が難関大学に行かないが、生徒の学びに向かう意識や学年の雰囲気、生徒全体の進路に対する意識も変わってくる。渋高に行って良かったという意見も、卒業生の中から聞こえる。渋谷高校として「進路実現のために、このような丁寧な指導をする体制がある」という具体的なメッセージを、中学に発信し続けることで、中学校としても生徒をプッシュしやすくなり、「渋高をチャレンジしてみよう」という中学生を増やす流れとなる。

令和6年度学校経営計画について、委員6名全員からの承認が得られた。

3, 学校現状報告について

(1)学校教育自己診断の結果について

●大きな特徴は次の5つ。生徒との連絡手段として、クロムブックの使用の定着、人権の大切さを学ぶ機会についても上昇、保護者の学校行事等への参加率の上昇、保護者と学校の連絡の緊密さの向上などである。今後の課題は、保護者の回答率をいかに上げるかである。

(2)総合的な探究の時間(報告) 生徒が作成した発表ポスターの紹介

(3)第3学年より ほとんどの生徒が、希望する進路へ進むことができた。

(4)教務部より 電子黒板とプロジェクターの新設の報告

(5)生徒指導部より 登下校中の事故・苦情及び今後の指導について

4, その他 特になし

以上